

猪苗代町立猪苗代小学校「いじめ防止基本方針」

令和7年4月1日改定

1 いじめの防止等の対策に関する基本的方針

【定義】

本校に在籍している当該児童と一定の人間関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童が心身の苦痛を感じているもの。
(いじめ防止対策推進法の定義より)

【基本理念】

- (1) 「思いやり」と「ならぬことはならぬ」という「あいづっこ宣言」の精神を身につけさせ、いじめの未然防止に努める。
- (2) いじめは「どの学校でも、どの子にも起こりうる」という認識のもと、早期発見、即時対応に努める。
- (3) いじめは「ひきょうな行為であり、人間として絶対に許されない」という意識を子どもも大人ももつ。
- (4) いじめが起こる学級、学年、学校の風土を変えていく。

【いじめの禁止】

児童は、いじめを行ってはならない。

【学校及び職員の責務】

本校は、いじめが行われず、すべての児童が安心して学習その他の活動に取り組むことができるように、保護者他関係者との連携を図りながら、学校全体でいじめの防止と早期発見に取り組むとともに、いじめが疑われる場合は、適切かつ迅速に対処し、さらにその再発防止に努める。

2 いじめの未然防止のための取組

- (1) 本校の教育目標の一つである「思いやりのある子ども」の育成を目指すため、いじめを行うこと、いじめを傍観することを絶対に許さない強い姿勢を児童に伝えていく。
- (2) 児童の豊かな情操と道徳心を養い、心の通う対人交流能力の素地を養うため、全ての教育活動を通じた道徳教育及び体験活動の充実を図る。
※「猪苗代の子どもわたしたちの誓い」の実践を通して思いやりや規範意識を育む。
- (3) 保護者並びに地域住民その他の関係機関との連携を図りつつ、いじめ防止に資する児童が自主的に行う児童会活動に対する支援を行う。
- (4) インターネットを通じて行われるいじめを防止し及び効果的に対処できるように、必要な啓発活動として、情報モラル教育を計画的に推進する。（別紙）
- (5) 休み時間は積極的に児童に関わるとともに、学級担任以外で校舎内外を巡視し児童を見守る。

3 いじめの早期発見のための取組

いじめは「どの学校でも、どの子にも起こりうる」「いじめは見えにくいもの」という前提に立ち、いじめではないかとの疑いをもって、早期に関わる。

(1) いじめ調査等

いじめを早期に発見するため、定期的な調査を次のとおり実施する。

- | | |
|----------------------|-------------|
| ①児童対象学校生活アンケート調査 | 年2回(6月、10月) |
| ②教育相談を通じた児童からの聞き取り調査 | 年2回(6月、10月) |

(2) いじめ相談体制

児童及び保護者がいじめに係る相談を行うことができるよう次のとおり相談体制の整備を行う。

- ① スクールカウンセラーの活用

(3) 人材の確保及び資質の向上

いじめの防止等のための対策に関する研修や講習会を年間計画に位置付け、職員の資質の向上を図る。

4 いじめの早期解決のための措置

(1) いじめの発見・通報を受けた場合は、特定の教職員で抱え込まず、校内組織に直ちに情報を共有し、学校長以下組織的対応を行う。

(2) 情報収集を綿密に行い、事実確認の上で、いじめられている児童の身の安全を最優先に考え、いじている側の児童に対しては、毅然とした態度で指導にあたる。

<いじめられた児童・保護者に対して>

- ① いじめられた児童には、「あなたが悪いのではない」事をはっきり伝えるなど、自尊心を高めるよう留意する。
- ② 個人情報の取扱い等、プライバシーには十分留意して対応する。
- ③ 家庭訪問等により、その日のうちに迅速に事実関係を保護者に伝える。
- ④ 徹底して守り通すことや、秘密を守ることを伝える限り不安を取り除く。
- ⑤ 児童に寄り添い支える体制をつくる。
- ⑥ 児童の状況に合わせた継続的なケアを行う。

<いじめた児童・保護者に対して>

- ① 複数の教職員が連携し、いじめをやめさせる措置をとる。
- ② 必要に応じてスクールカウンセラー等の協力を得て、再発防止に努める。
- ③ 迅速に保護者に連絡し、事実に対する理解を得た上で、対応を適切に行えるよう協力を求める。また、保護者に対する継続的な助言に努める。
- ④ 当該児童の指導に当たっては、いじめは人格を傷つけ、生命・身体を脅かす行為であることを理解させ、自らの行為の責任を自覚させる。また、いじめの背景にも目を向け、健全な人格の発達に配慮する。
- ⑤ 個人情報の取扱い等、プライバシーには十分留意して対応する。
- ⑥ いじめをみていた児童にも自分の問題として捉えさせ、いじめを止めさせることができなくても誰かに知らせる勇気を持つよう伝える。

(3) いじめの事実確認の結果は、校長が責任を持って町教育委員会に報告する。また、いじめが暴行や傷害等犯罪行為に当たると認められる場合は、警察と連携して対処する。

(4) いじめ発生の場合は、即座に事実確認をし、いじめ根絶チームで迅速に対応する。また、いじめの事実と対応についてその日のうちに保護者へ報告し、ご理解を得るなど、説明責任を果たす。

5 いじめ問題に取り組むための組織

(1) 校内における組織

児童のいじめを根絶するため、「いじめ根絶チーム」を設置する。

<構成員>

◎リーダー 校長 ○サブリーダー 教頭

※委員 生徒指導主事、学年主任、養護教諭、関係担任、その他関係職員

・必要に応じて、P T A役員等を臨時委員として加えることができる。

<活 動>

- ① いじめの実態及び情報を収集するための活動
- ② 個々の情報を総合的に判断し、解消への対応について協議する活動
- ③ 児童及び保護者へのいじめ根絶の啓発活動
- ④ その他いじめ根絶にかかわる活動

<会議及び記録>

会議は必要に応じて開催し、記録をとってファイルで保存する。

(2) 校外における組織

- ① 猪苗代警察署管内学校生徒指導協議会（学警連）：年3回開催し、情報交換や連携を図る。
- ② 猪苗代町P T A連絡協議会： 年2回開催し、情報交換を行う。
- ③ 猪苗代地区防犯協会連合会： 年2回開催し、情報の共有を行う。

6 重大事案への対処

生命・心身又は財産に重大な被害が生じた疑いや、相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがある場合、又は、児童や保護者から「いじめられて重大な事態に至った」という申立てがあった場合は、次の対処を行う。

- (1) 重大事案が発生した旨を、町教育委員会に報告する。
- (2) 町教育委員会と協議の上、当該事案に対処する組織を設置する。
- (3) 上記組織を中心として、事実関係を明確にする調査を実施する。
- (4) 上記調査結果については、いじめを受けた児童・保護者に対し、事実関係その他の必要な情報を適切に提供する。
- (5) 調査の結果を踏まえ、町教育委員会と連携して対処又は再発防止に努める。
- (6) 重大事案が発生したことを真摯に受け止め、学校として説明責任があることを自覚した上で早急に事実調査を行い、当該児童や保護者に対し誠意ある対応を行う。

7 その他

- (1) いじめの見過ごしや隠蔽をせず、いじめの実態把握及び迅速な対応が図れるように、次の点を学校評価の項目に加え、適切に自校の取組を評価する。
〇いじめの早期発見に関する取組に関すること
- (2) より実効性の高い取組を実施するため、本方針は必要に応じて見直す。
- (3) いじめに関する懇談会を開催するとともに、いじめに関する情報を積極的に発信していく。

